

第18回詰将棋解答選手権初級戦解説

第1問 金子清志作

4枚の銀を協力させて。玉を逃げられなくすることがポイント。

55銀右引は43玉、55銀左は63玉で詰まない。

44と64の銀が取られない方法を考えると、55銀右上または55銀直に絞られる。

55銀直は65玉と逃げられて詰まないため、55銀右上が正解。

第2問 島岡俊弥作

初手は15歩も考えられるが、同玉、23飛成に16玉で詰まない。

飛車を捨てる23飛成が正解。

同玉とは取れないので同香と応じ、15歩と歩を突いて詰み。

持ち駒の歩を打って詰ますのとは異なり、反則にはならない。

3手目でうっかり15角成とすると、同角で詰まない点は注意が必要。

第3問 井上賢一作

玉から遠く離れた92龍の活用が鍵。持駒の角を打って82馬を移動させることが解決策だが、その場所が問題となる。

28以外のどこから打っても同馬、12龍までの詰みとなりそうだが、**46歩の合駒がある。同角、同馬と進んで**12龍とすると、馬の守備範囲である13に歩を打たれて詰まない。

それを避ける唯一の位置が37で、同馬とする他にないが12龍で詰み。

第4問 松田圭市作

初手23馬は11玉、22馬、同歩、13龍、12歩で詰まない。

34馬が正解で、対して同桂の場合は、23龍、11玉、21龍まで駒余りの詰み。23に合駒をすると、同香成、11玉、12成香までやはり駒余り。

同飛と応じると、13龍、同玉、23角成まで駒が余らないため、最善すなわち正解となる。

第5問 杉田透作

初手58飛は28歩、同飛寄、19玉で詰まない。

59飛を横に活用するための27角が正解で、同桂成は19銀で詰むため同桂不成と応じる。

3手目は26飛を縦に活用するために19銀とし、同桂成に58飛と上がって詰み。

15桂が2回跳ねることが特徴。入玉形に戸惑った方もおられたかもしれない。

第6問 沖昌幸作

初手は銀や角を動かす手も見えるが、23桂右成が正解で、同桂とする他にない。

3手目は13銀不成が鋭い捨駒で、同玉と取ると23角成と桂を取って駒余り。初手13銀不成とし、同玉、23角成が同桂で詰まないのと異なるのが23桂右成の効果。

33玉と逃げて43角成で詰み。3手目13銀成も同じようだが、33玉、43角成に24玉と逃げられてしまう。

全問正解かつこの問題に時間が掛からなかった方は、初級戦卒業と胸を張れるだろう。